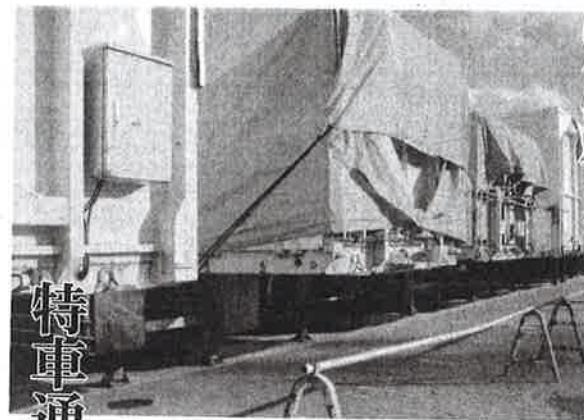


(写真と本文は関係ありません)

特車通行許可証持たない運送会社

軸重違反



放置する事業者も

阪神間を運行する輸送業者は、国際法で定められた積載容量でも違反となり、高速道路を使用しての輸送が出来ないとして様々な取り組みを行っているよ

高速道路では、いまだに軸重による違反が後を絶たない。適正な積載量、国が定めた積載内容でも自動軸重計測器では軸重違反となるなど、トレーラを保有する運送会社では対処できます渋滞しているようだ。

特車通行許可証持たない運送会社

ンジしているため、取り締まりも厳しいようだ。当社でも何度か特車通行許可証の申請中に運行し、その結果、コードを取り扱う協同組合から脱

退することになったため、現在は割引率の低いクレジットでETCカードを活用している状態」と話す。車庫に保管してしまっては出来ないため、特車通行許可証がなくても、違反

覚悟で運行させていいようだ。自動軸重計測器での軸重違反があつても、根本的にトレーラに必要な許可の存在を承知していない運送会社もあり、適

ている運送会社による弁明は多いが、適正に許可証を取得していない運送会社などが弁明すれば、相

当な数の弁明処理となるのかもしれない。(佐藤弘行)

組みを行っているようだ。実際、大ト協海コン部会(山口与嗣雄部会長)や阪神港海上コンテナ協会(同会長)でも、会員事業者が定められた積載内容で、阪神高速湾岸線を走行していた際、軸重15トン以上の違反として警告を受け、弁明したもの、そのまま違反として処理された。これに対して、協会あげて裁判で争う姿勢を見せるなど、トレーラの軸重違反では様々な問題や不満が出ている。

以上の違反として警告を受け、弁明したものの、そのまま違反として処理された。これに対して、協会あげて裁判で争う姿勢を見せるなど、トレーラの軸重違反では様々な問題や不満が出ている。

大ト協海コン部会会長の山口氏は、「会員事業者から、積載違反はないにも関わらず、高速道路の自動軸重計測器による警告指導通知が届いたため、弁明が届いたため、弁明の理由について

新車である可能性が高いため、必ず停止させられて軸重計測ならばに特車通行許可証の確認が行われるケースが多い。特に今年度は昨年末に各トラックメーカーから新型車が発表されてフルモデルチェ

しかし、中には定量積載でも軸重違反として警告指導を受けても、弁明せず放置するものや、特殊車両通行許可を取得していないのに、平気で軸重違反がないとして弁明し、逆に特車通行違反で違反点数を加算されるケースも存在しているようだ。

しかし、中には定量積載でも軸重違反として警告指導を受けても、弁明せず放置するものや、特殊車両通行許可を取得していないのに、平気で軸重違反がないとして弁明し、逆に特車通行違反で違反点数を加算されてしまうこと、それを理解していない運送会社の経営者もいるようだ。

があり、相談に応じたところ、特車通行許可証を保持しておらず、トレーラに特

車通行許可証が必要な場合、ただちに特車通行許可証が認められ

たところ、特車通行許可証を保持しておらず、トレーラに特車通行許可証が必要な場合、ただちに特車通行許可証が認められない場合、申請から約2か月から3か月が必要であるため、新車に関しては定量積載でも弁明は行わず、放置して違反点数3点が加算されてしまう。高速道路会社も、そういうことを理解しているのか定かではないが、有人での軸重違反取り締まりの場合、新型車は新車である可能性が高いため、必ず停止させられて軸重計測ならばに特車通行許可証の確認が行われるケースが多い。特に今年度は昨年末に各トラックメーカーから新型車が発表されてフルモデルチェ